



「八雲のはじまり年表」

年代	尾張藩・名古屋関連、その他	北海道八雲町関連
神代	素戔鳴尊（すさのおのみこと）が八岐大蛇（やまたのおろち）を退治し、出雲国須賀に宮を造る このときに詠まれた「八雲立つ…」が和歌のはじまりとされる。《古今和歌集》 退治した八岐大蛇の尾（お）から張（わり）出た剣が草薙剣で、後に日本武尊の妃の宮簀媛命が熱田の地に奉斎し、これが熱田神宮の創祀となったといわれている。《熱田》 尾張国の国号は、草薙剣がこの地に留まっていることに由来するという説がある。《尾張名所図会 卷之一》	
和銅 5 年（712）	『古事記』成立 和銅 5 年の序がある。真福寺宝生院（大須観音）の写本は現存最古の写本で、真福寺二代住職信瑜（しんゆ）の命令によって賢瑜（けんゆ）が書写し、信瑜が同一の底本により校訂したもの。賢瑜の署名と年齢が記されており、上・中巻は応安 4 年（1371）、下巻は応安 5 年（1372）に書写されたことがわかる。《大須》	
養老 4 年（720）	『日本書紀』成立 現存最古の正史。『続日本紀』の養老 4 年 5 月 21 日条に完成奏上を報ずる記事がある。《古典》	
天明 5 年（1785）	河村秀根による『日本書紀』の注釈書『書紀集解』（※展示資料）成立 天明 5 年 11 月の秀根の序がある。秀根の子である殷根・益根により考訂がなされ、全巻刊行の完了は、没後の文化初年（1804）頃。《古典》	
寛政 10 年（1798）	本居宣長による『古事記』の注釈書『古事記伝』（※展示資料）成立 『古事記伝』をはじめとする宣長の主著の多くが尾張の門人の助成により、名古屋城下の新興書肆永楽屋東四郎により出版される。《国文学》	
安政 5 年（1858）	14 代尾張藩主の徳川慶勝が隠居を命じられる（7 月） 外交問題・将軍継嗣を巡って大老の井伊直弼と衝突し、江戸の戸山屋敷（下屋敷）に幽閉される。《殿様》	
元治元年（1864）	前尾張藩主の徳川慶勝が長州征伐の総督に任命される 慶勝は長州藩への厳しい処罰は必要ないと考え、12 月に全軍を撤兵させた。幕閣は慶勝が西郷に操られたとみて、以後慶勝と幕府の関係は急速に悪化する。《あゆみ》	
慶応 3 年（1867）	大政奉還（10/14） 将軍徳川慶喜が朝廷に政権の奉還を上表し、翌日これが聴許される。上奏文の提出と同日、薩摩藩主（日付は 13 日）と長州藩主に対し、「討幕の密書」が授けられたが、10 月 21 日に両藩に対してしばらくは討幕の実行を中止すべしとの御沙汰書が授けられた。《国史》	
明治元年（1868）	鳥羽・伏見の戦（1/3） 京都南郊の鳥羽・伏見において新政府軍と旧幕府軍との間で戦闘がおこり、旧幕府軍が敗退する。6 日、徳川慶喜が大坂城を脱出する。《国史》 徳川慶勝の元に間宮外記の書状を携えた吉田知行が駆けつける（1/6） 書状は「渡辺新左衛門等の佐幕派の一味が、幼君義宜を奪って江戸へ下り、旧幕軍に合流して再び京都へ登ろうとたくらんでいる」というものであったといわれている。《和合》 青松葉事件（1/20） 名古屋城に入城した慶勝が、渡辺新左衛門、榊原勘解由、石川内蔵允の 3 名に「年来、姦曲の処置あるを以て、朝命により、死を賜うものなり」と上意を言い渡し、斬首刑に処す。翌 21 日に 4 名、23 日に 2 名、24 日に 5 名の合計 14 名が処刑される。《和合》 当時、藩内では勤王・佐幕派が争っていたが、慶勝自身は勤王派であった。現在では若い藩主云々という企てがあったか疑わしいだけでなく、処刑された人々が本当の意味で佐幕派であったかどうかとも疑わしいと考えられている。《あゆみ》	

明治 2 年 (1869)	版籍奉還 (6/17) 16 代尾張藩主の徳川義宜が初代名古屋藩知事に任命される。《殿様》 新御殿にできた学校に八雲隊が出席 (11/2 頃) 八雲隊は目見以上の子弟により組織。《郷土》 明治 2 年 11 月の職制改革により明倫堂を「学校」と改称し、皇学、漢学と並んで洋学の教授と助教授をおく。《教育史》	五稜郭の旧幕府軍降伏し、函館戦争が終わる (5/18) 《北海道》 開拓使が設置される (7/8) 《北海道》 蝦夷地を北海道と改称する (8/15) 《北海道》
明治 3 年 (1870)	川名山招魂祭 (5/3) 徳川義宜参詣、八雲隊残らず参詣。《郷土》 明治元年 12 月に尾張藩下屋敷練武場において戦死者招魂祭が行なわれる。この頃、徳川慶勝直筆「哀垓忠戦死碑」が香積院山内に建立され、その後、明治 2 年 4 月に旌忠社の社殿が完成、同 5 月 2 日に旌忠社鎮座祭、3 日に旌忠社鎮座奉祝大祭が行われる。明治 8 年 10 月に社名を招魂社と改め、大正 7 年 4 月に名古屋離宮内に遷座、昭和 14 年 4 月に社名を愛知縣護國神社と改称。《護國》 徳川慶勝が二代目名古屋藩知事に任命される (12 月) 翌年 7 月の廃藩置県により慶勝は名古屋県知事となるが、11 月に免ぜられる。《和合》	
明治 9 年 (1876)	家禄・賞典禄が廃止され、旧藩士が貧窮する (8 月) 《和合》	
明治 10 年 (1877)	旧藩士の移住地の探査のため、徳川慶勝が吉田知行、角田弘業、片桐助作を北海道に派遣する (8/27) 吉田知行らは 8 月 27 日に東京の徳川邸を出発して品川港で玄武丸に乗船、翌 28 日に抜錨。《和合》	吉田知行ら夕刻に函館に到着する (8/30) 10 月 25 日に吉田と角田が東京へ帰る。《和合》
明治 11 年 (1878)		開拓使に慶勝名で土地下げ渡しを願い出る (5 月) 《和合》 移住先発隊が遊樂部に入る (7 月) 《和合》 吉田知行らが村名候補を徳川邸家令宛に提案 (8/16) 初めから村名をつけて一村落とした方が後々有利として、「年魚市(あゆち)村」、「愛知村」、「名古屋村」を提案し、「相成るべくは公(慶勝)に御選み願い奉り度く存じ奉り候」と上申する。《和合》 第 1 回移住人 (15 戸 82 名) が遊樂部に入る (11 月) 《和合》
明治 12 年 (1879)		移住人総代吉田知行が「一村立之義二付願」を開拓使函館支庁に提出 (3/12) 「村名の義、八雲村と相唱え申し度く」と願い出る。村名について角田弟彦は『胆振日記』に「さて八雲の二字は全く從一位(慶勝)様の思召により御選出遊はされ候なり」と記す。《和合》 八雲学校落成 (7 月) この年の移住人が熱田神宮の神符と徳川家歴代の神霊とを奉戴して板蔵の 2 階に祀り、後に八雲学校の一室に祀る。明治 17 年に社殿を新築して八雲神社ができる。《和合》
明治 14 年 (1881)		開拓使より一村立の許可があり、八雲村が誕生する (7/20) 《和合》
明治 19 年 (1886)		八雲神社が村社に列せられる (12/1) 《祭神》
明治 20 年 (1887)		明治天皇の特別の許可を頂き、熱田神宮の御分霊が八雲町に遷座される (3/23) 御分霊は片桐助作らにより運ばれ、八雲神社は熱田神宮の唯一の分社となる。《慶勝》

明治 43 年 (1910)	名古屋開府 300 年を記念して尾陽神社の創立の義が持ち上がる 記念会会長からの寄付 3 万円を基本に大正 6 年に旧藩士による財団法人戴恩会を組織し、その手で神社を建築することになる。《名古屋新聞 T13. 10. 29》	
大正 11 年 (1922)	尾陽神社の創立が認可される（6/30） 当時東照宮に合祀されていた徳川義直と徳川慶勝を分祀し、創立することが認可される。同時に社格を県社に列せられる。東照宮が徳川家康公を残すのみになることから、氏子の人々は織田信長、豊臣秀吉の二神を他から遷し合祀し戦国時代の英雄を祭神として一層崇敬を深からしめることを計画する。《名古屋新聞 T11. 7. 2》	尾張徳川家 19 代当主の徳川義親がスイスで木彫り熊を購入する（4 月頃） 《熊彫》
大正 13 年 (1924)	尾陽神社遷宮の式（10/28） 東照宮より御器所町字北市場俗称桃山へ遷座。神社敷地は龍興寺を建てた佐久間大学の城跡（御器所城跡）であるが、他の候補地として衛戍病院跡、大池跡、鶴舞公園熊澤山が挙げられていた。《名古屋新聞 T13. 10. 28, 29》	
昭和 9 年 (1934)	八雲町が誕生する 中区広路町の一部が八雲町となる。行政区の変更により昭和 12 に昭和区となり、昭和 39 年に一部が千種区となる。《町名》 瑞祥地名。《昭和》	徳川慶勝を八雲神社の御祭神として合祀する 八雲神社の祭神は、熱田皇大神、天照皇大神、素戔鳴尊、日本武尊、宮簀媛命、建稻種命、徳川慶勝命。《祭神》
昭和 24 年 (1949)	尾陽神社に天照大神を主祭神として合祀する（9 月） 境内に大国主命の知恵袋といわれる九延彦を祀る九延彦神社がある。昭和 48 年に徳川家より分祀された栄世稻荷社を摂社とする。《祭神》	

出典・参考資料

《熱田》：『熱田神宮の伝説と名所』 熱田神宮宮庁 [2012 年]、《大須》：『大須観音真福寺文庫展』 名古屋市博物館 1984 年、《古典》：『日本古典文学大辞典』 岩波書店、《国文学》：『国文学 解釈と鑑賞』 2002 年 9 月号第 67 巻 9 号 №856 ぎょうせい、《殿様》：『尾張の殿様物語』 徳川美術館 2007 年、《あゆみ》：『名古屋 400 年のあゆみ』 名古屋市博物館/編集 「名古屋 400 年のあゆみ」 実行委員会 2010 年、《国史》：『国史大辞典』 吉川弘文館、《和合》：『和合会史 改訂』 和合会、2015 年、《北海道》：『北海道の歴史 第 2 版』 田端宏ほか/著 山川出版社 2010 年、《郷土》：『郷土文化会』 第 46 巻第 3 号 通巻第 163 号 名古屋郷土文化会、《教育史》：『愛知県教育史 第 3 巻』 愛知県教育委員会 1973 年、《護國》：『愛知縣護國神社年表 補訂』 岩本典三郎/著 愛知県護國神社 2001 年、《祭神》：『日本の祭神事典』 日外アソシエーツ 2014 年、《慶勝》：『徳川慶勝公と八雲』 [八雲神社] 2004 年、《熊彫》：『熊彫 義親さんと木彫り熊』 上原敏/編集 凹プレス 2017 年、《町名》：『なごやの町名』 名古屋市計画局 1992 年、《昭和》：『昭和区の歴史』 名古屋国際高等学校社会科学教科会/編著 愛知県郷土資料刊行会 1999 年

平成 30 年 7 月 12 日

編集・発行 名古屋なんでも調査団

〒466-0064
名古屋市昭和区鶴舞一丁目 1 番 155 号
名古屋市鶴舞中央図書館内
電話 (052) 741-9822